

光学医療診療部

■ スタッフ

部長		堀木紀行
副部長		田中匡介
医師数	常勤	7名
	併任	3名
	非常勤	2名
内視鏡技師(看護師)		
	常勤	2名
	非常勤	2名
M E		3名
看護師	非常勤	2名
事務職	非常勤	1名
その他	洗浄員	2名

■ 光学医療診療部の特色

- ① 内視鏡3室と透視2室は十分なスペースを確保しており、さまざまな検査や治療にも対応できる構造となっている。
- ② 透視室のうち1室は陰圧室となっており、気管支鏡検査に対応できる空調装置を設けている。
- ③ 最新の透視装置を導入し従事者の被ばくを最低限とし、なおかつ防護カバーを装着することにより、いかにスタッフの被爆を最小限に抑えるかを配慮している。
- ④ 透視室を含む全トロリーに超音波内視鏡装置が設備されており、いつでも超音波内視鏡検査が可能である。また、大学病院として EUS-FNA 症例が多いため ALOKA SSD-α10 を備えている。
- ⑤ ダブルバルーン内視鏡の使用頻度が高く、2セット用意することで透視2室同時に検査や治療(例：胃全摘後の総胆管結石除去など)を行うことが可能である。
- ⑥ 洗浄室は強力な換気装置が設けられた独立した設計になっており、スコープの洗浄が行いやすいように特注のシンク台を設置、専任の洗浄員を配置している。

■ 診療体制と実績

1. 業務体制

日本消化器内視鏡学会および日本気管支学会の指導施設であり、最先端の内視鏡診療と教育を行っている。消化器肝臓内科、消化管および肝胆膵外科、

呼吸器内科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、総合診療部、救急部、放射線科の医師と協力して、消化器疾患、呼吸器疾患、咽頭・頸部疾患領域の内視鏡検査・内視鏡治療を行っている。当部門の内視鏡画像データはデジタルファイリングされ、大学のネットワークを介して、外来・病棟等で参照が可能であり、診療・教育等に利用されている。

消化器領域では、拡大内視鏡や超音波内視鏡を用いて、詳細な病変の観察、診断が可能である。早期の食道癌、胃癌、十二指腸腫瘍、大腸癌に対する内視鏡的粘膜切除術、同粘膜下切開剥離術、消化管出血・消化管狭窄の治療、食道静脈瘤硬化療法・血紮術、内視鏡下胃瘻造設術、胆管・膵管内結石の治療、狭窄胆管・膵管の拡張術等を行っており、非侵襲的に良好な治療成績を上げている。また、胃・十二指腸疾患の原因菌とされているヘリコバクター・ピロリ感染の診断と治療についても豊富な経験を有している。呼吸器領域では、気管支鏡を用いて、肺癌等の胸部腫瘍性疾患の診断と内視鏡的治療、喀痰採取による気管支鏡下細胞診等を行っている。

研修医は臨床研修制度によりローテーションしてくるため、個々の研修に適した内視鏡指導を行っている。消化器内科や内視鏡医をめざしている医師に対しては、本人の力量、やる気、興味により習得速度が異なるため、段階的な到達目標を定めた内視鏡指導を導入している。

当科では医局に属することなく消化管および胆膵内視鏡の診断および治療の消化器内視鏡研修を受けること、消化器内視鏡および消化器病学会などの専門医資格を習得することが可能である。

2. 診療実績

実績 (2018年1月～2018年12月)

		期間合計
上部	検査	2,843
	治療(計)	239
	ESD	85
	EMR	11
下部	検査	1,167
	治療(計)	251
	ESD	22
	EMR	210
胆膵	EUS/FNA	319
	ERCP	374
DBE		84
カプセル		165
BF		226

Op	142
EIS・EVL	40

■ 今後の展望

当科内で内視鏡技師資格を持つスタッフを育成することにより、内視鏡エキスパートスタッフを養成するとともに、内視鏡業務に専念できる環境を作りあげることが重要であると考えている。

内視鏡機器の進歩はめざましく、機器老朽化が進んでおり、2022年には、保証期限が切れてしまう機材が出てしまうため、段階的に新しい機器に移行してゆく必要があると思われる。

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/gastro/koshin/koshin.html>